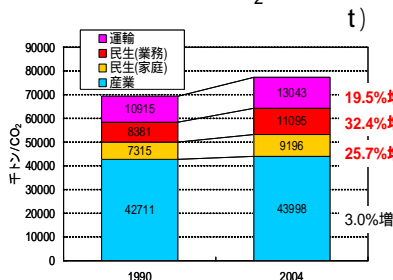


# 愛知県CO<sub>2</sub>排出量20%削減に向けて

CO<sub>2</sub>・エネルギーグループ  
倉持幸男、石神勝博、山脇 宏、村瀬伸二  
窪田光宏、大坂侑吾、加藤禎人

## 現状の把握(課題認識)

目標:2020年度にCO<sub>2</sub>排出量を90年度比 - 20% (約56,000千t)

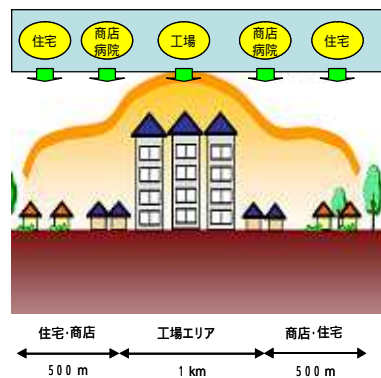


排出量の増加割合の大きい  
・民生部門(家庭・業務)  
・運輸部門  
のCO<sub>2</sub>削減が不可欠!

モデル都市:豊田市  
自動車への依存度が高い  
(豊田:82.5%,名古屋:44.1%)  
大規模工場が集積

## 2020年に向けての提言の概要

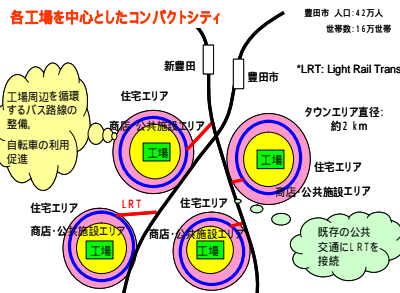
### “工場を中心とした脱マイカーコンパクトシティ”



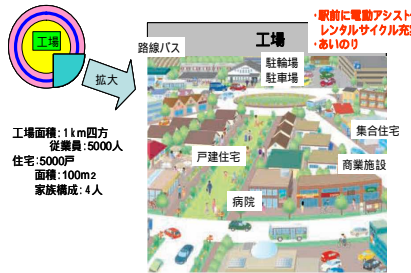
工場を中心として、その周囲に商業・公共施設・病院地域、住宅地域が展開する直径2kmのエリアであり、車、公共交通機関を使用せずに生活できるコンパクトシティ

## 提案の内容

### コンパクトシティイメージ



### コンパクトシティ内部イメージ



## 提案実現のための具体的な取り組み(アクションプラン)と実現可能性

### 実現のための取り組み

都市計画立案に対するアピール  
企業と社員が一体となった新たな街づくりの促進

### 実現可能性

× 既存都市では大規模な再開発が必要  
燃料電池、太陽光発電はコストが非常に高い

### CO<sub>2</sub>削減ポテンシャル

脱マイカーの推進	232千t-CO <sub>2</sub>
エコカー導入	86千t-CO <sub>2</sub>
地域冷暖房の導入	42千t-CO <sub>2</sub>
太陽光発電の導入	241千t-CO <sub>2</sub>
家庭用燃料電池の導入	145千t-CO <sub>2</sub>
合計	746千t-CO <sub>2</sub>

1990年比 - 21% (豊田市)

## 波及効果

CO<sub>2</sub>排出量の削減効果  
自動車交通への依存度が低下  
公共交通の利用率が向上  
農地、自然環境の保護可能  
中心市街地の活性化  
インフラ整備・管理費の削減  
緑地等の減少による環境悪化  
生活のゆとりが低下  
過疎化の進行  
自転車利用による脱メタボ社会  
コンパクトシティによる高齢者に優しい社会  
地域冷暖房導入による省エネルギー  
脱マイカーの交通量削減により交通事故撲滅  
あいのり促進による少子化対策